2021 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

氏名 Kristen Maree Sullivan	職名 教授	学位 修士（応用言語学）（Macquarie University 2013年）
---------------------------	-------	--

研究分野	研究内容のキーワード
応用言語学（特に英語教育）、日本学・日本語学	高等教育における国際化、日豪関係、留学、カリキュラム・デザイン、学習者オートノミー

研究課題
<p>1. 日本と豪州の高等教育における国際化に関する政策および戦略の変遷と関係、日豪関係を背景にして両国の高等教育における国際化政策及び戦略、学术交流の在り方について研究を行っている。</p> <p>2. 留学の学習効果を高めるための取り組みの計画と評価、留学経験者の留学後のことなど、留学に関する研究を行っている。</p> <p>3. 外国語学習における自律学習能力・学習者オートノミーの育成を目的とした実践的取り組みに関する研究。</p>

担当授業科目
<p>異文化間コミュニケーションⅠ（前期）</p> <p>エリア・スタディⅠ（Aクラス・Bクラス）（前期）</p> <p>ライティング基礎（bクラス・dクラス）（前期）</p> <p>人文学入門（1回）（前期）</p> <p>異文化間コミュニケーションⅡ（後期）</p> <p>国際ボランティア演習（後期）</p> <p>パラグラフ・ライティング（aクラス・cクラス）（後期）</p> <p>TOEIC 演習Ⅰ（後期）</p> <p>グローバル英語Ⅱ（Bクラス）（後期）</p>

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ、異文化間コミュニケーションⅡ】</p> <p>異文化間コミュニケーションにおける誤解や失敗を取り上げるケースについての議論、体験型アクティビティ、視聴覚資料、学外のゲストスピーカーによる講義、振り返り課題などを活用して、異文化間コミュニケーションの概念への理解を深める工夫を行った。</p>
<p>授業科目名【国際ボランティア演習】</p> <p>国際協力 NGO である日本国際ボランティアセンターおよびカンボジアの幼児教育において活動しているチャリティ団体である TukTuk と協力して、PBL という形をとって、受講生が主体的になってボランティア・プロジェクトの計画・実施・結果報告を行った。ボランティア・プロジェクトの実施を通して、国際協力や世界の情勢について知識や意識を深めると同時に、チームワークスキル、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力などのソフトスキルの向上を目指した。</p>
<p>授業科目名【エリア・スタディⅠ】</p> <p>CLIL（内容言語統治型学習）手法を用いて行う授業である。様々な情報源や形の資料を活用することで、受講者の理解や関心を高めつつ、エリアを学ぶときの手法についても意識させるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【ライティング基礎、パラグラフ・ライティング】</p> <p>ライティング・プロセスを踏んで英作文を書くことの大切さ、自らの目標設定や自己評価を行うことの大切さについて意識させるため、それらを意識させる工夫を取り入れたアクティビティおよび課題を実施した。</p>

<p>授業科目名【TOEIC 演習 I】</p> <p>試験対策と英語能力の向上、両方の側面から授業を行った。自己学習・学習振り返り課題を通して、受講生が自律学習能力についての意識・知識・自信を深めることを目指した。また、Quizlet という単語学習アプリなどを取り入れ、自己学習のための様々なツールを受講者に経験させ、紹介した。</p>
<p>授業科目名【グローバル英語 II】</p> <p>英字新聞を読む力やメディアリテラシー能力の向上を目指し、世界で起こっていることとその背景について受講者が自ら調べ、理解できること、それについて英語で表現・議論できるようになることを目指しながら、受講者の学習や理解を助けるために必要な工夫を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会 (JALT) Association for Language Testing and Assessment of Australia and New Zealand 大学英語教育学会 (JACET) 日本自律学習学会 (JASAL) 留学生教育学会 (JAISE) オセアニア教育学会 言語文化教育研究学会 (ALCE) Japanese Studies Association of Australia		2005 年 9 月～現在に至る 2012 年 7 月～現在に至る 2013 年 1 月～現在に至る 2013 年 9 月～現在に至る 2019 年 4 月～現在に至る 2019 年 4 月～現在に至る 2021 年 6 月～現在に至る 2021 年 7 月～現在に至る

2021 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. Supporting Learning During Short-Term Study Abroad: Evaluating a Pedagogical Intervention	単著	2021 年 8 月	JALT Postconference Publication	本論文は、短期留学プログラム における学生の留学経験をより 有意義なものにすることを 目指して、2019 年夏にオース トラリア・ブリスベンでの短期 留学期間中に実施した教育的 介入について分析した。分析か らは、留学開始前・留学中・留 学後の各過程において、振り返 りのあり方に関するサポート をより充実させることによっ て、教育的介入の効果を高める ことができるという結論に至 った。教育的介入においては、 学生の振り返り活動をどのよ うにして支えればよいかに関 する具体的な方法を提示した。

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. A Comparative Analysis of the Higher Education Internationalization Policies of Australia and Japan (豪州と日本における高等教育の国際化政策の比較分析)	単著	2022年3月	西南女学院大学紀要	本稿は、1950年代から現在までの豪州政府と日本政府の高等教育における国際化政策を対象として、政策の変遷とその背景・目的について考察した。戦前の状況を簡単に確認したのちに、特定された3つの段階・時期(1950年代～1970年代、1980年代～1990年代、2000年代～現在)に分け整理・分析した。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
Investigating Interconnections between the Higher Education Internationalization Policies of Japan and Australia	日本学術振興会	1,950,000円	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
全国語学教育学会年次国際大会査読委員会	査読者	2021年度

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員会

学生個人情報保護委員会